

平成21年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
I 大学の運営に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている
		B	○概ね順調に運営されている。
		B	○「研究院」については、年度計画が遅れている。(21年度計画では、研究院の役割等について学内会議で見直し、本学の現状に沿った運営を進める。とあるが、21年度は、「研究院のあり方」について検討した結果、22年度を移行期間と位置づけ、23年度から再編成した研究院の本格稼働を目指すに後退してしまった。)
		B	
		B	
1 教育の成果に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。なおかねての懸案である国際総合学部における実践的教養教育の更なる充実を目指すためのコースの再編とその教育内容充実への取組みがさらに加速されることを期待したい。
		B	
		B	○医師、看護師、保健師の国家試験合格率が95%~100%と高水準は評価できる。
		B	
		B	○共通教養についてクラスの増設や担任体制の柔軟な運用など指導環境を整備したこと、又 英語による科目を全コースで開講したことなど評価したい。一方、教育の根幹にかかわる学部のコース再編の議論が検討途上にあり、早期にその方向性を明確にし、具体化してほしい。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 学部教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	<p>○国際総合学部の改善改革報告書が纏められたことは評価するが、大学院改革をも踏まえたコース再編を中心に、単位の実質化と学位の質の保証等報告書に示されている学部教育のいっそうの充実に向けた具体的取り組みの進展を期待したい。</p> <p>○特に国際総合学部を中心に長期留年・休学者が存在することは残念であり、高大連携を含め在学の全期間・全活動にわたるキャリア教育のいっそうの充実を期待したい。</p> <p>○医学部の入学定員が前年度に続きさらに増員されたことは地域貢献の観点からも評価できるが、同時に教育の質の確保にさらに留意されたい。</p> <p>○看護学科卒業生の附属病院就職率が大幅に低下していることは遺憾であり、その原因の解明と今後の対応への積極的取り組みを期待したい。</p>
		B	<p>○共通教養・学部教育共に進展が見られ、学位の質の保証にも努力が払われた。新入生のキャリアへの意識も高まった。医師国家試験及び看護師・保健師の国家試験も高い合格率を維持できた。</p>
		B	<p>○平成21年6月に国際総合科学部の改善改革報告書が完成したが、学部のコース再編の議論が途上であり、改善が進んでいない。(コースのあり方の検討については、大学院へのつながりを考慮した教育ができる新コースの構想について検討を進めたに留まっている。</p> <p>○看護学科卒業生の附属2病院への就職率が47%から29%へ大きく低下している。(大きく低下した原因を一時的なものを含め分析し、就職率向上の具体的方法を早急に実施することが必要である。)</p>
		B	<p>○看護師の就職率アップについては、工夫が必要。</p>
		B	<p>○医師国家試験の合格率は依然高水準を維持しているが、少し低下傾向を示しており、医学科定員増へのより充実した的確な対応を図らなければ教育の質の低下については合格率への影響も懸念される。</p>
1 大学院教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	<p>○3研究科への再編が無事スタートし、各研究科の特色を生かしたカリキュラムの充実が進められていることを評価したい。</p> <p>○一部の研究科(専攻)において入学定員と入学者数に大幅な隔りがあることは残念である。その要因分析に努め、定員の設定自体の見直しを含めその解消への具体的取り組みを期待したい。</p>
		B	<p>○大学院教育にも新しい取り組みが見られる。</p>
		B	<p>○国際総合科学研究所を「都市社会分科研究科」「生命ナノシステム科学研究科」「国際マネジメント研究科」に再編したが、その目的が充分達せられたかの総括が必要と考える。(大都市問題や地域医療など横浜市の抱える政策課題への対応、より実践的な教育研究、新たな学問領域の創設、外部資金獲得の強化等について)</p>
		B	<p>○PhD-MDコースの検討やPMDAとの連携など、新しい試みを進めていただきたい。</p>
		B	<p>○指導体制の整備、拡充など大学院教育の成果向上に努力されていることはうかがえるが、一部の専攻において入学定員と入学者数に大きな隔りがあり、新コース再編をより実効あるものにするため、その原因分析と対応策が望まれる。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 教育内容等に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。
		B	
		B	○アドミッション委員会規定を制定の上、アドミッション委員会を設置したことは評価できる。
		B	
		B	
2 学部教育の内容等に関する目標を (1) 達成するための具体的方策	B	B	○アドミッション委員会の設置、アドミッションポリシーの策定などの取り組みが進められていることは評価するが、優秀な学生確保のためには直接の入試体制はもとより教育内容の充実、魅力あるキャンパス整備、各種学生支援体制の充実、広報活動の焦点化などの大学の総力を挙げた総合的な取り組みが必要であり、アドミッション委員会がその全体的な戦略本部的機能を果たすことを期待したい。 ○アドミッションポリシーとともに教育内容の根幹となるカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの総合的な確立整備を早急に進められたい。 ○教育内容、方法、水準の国際標準化のためには適切なGPA制度を早期に導入することが不可欠であり、具体的な進展を強く期待したい。
		B	○優秀な学生の確保に向けた取り組みは評価できる。GPAの導入に向けた取り組みが前進している。
		B	○GPAの導入に向けた取組は、なお一層の促進を期待する。(GPA制度の運用に向けて、「国際総合科学部におけるGPA制度の取扱いに関する要項」を制定した。22年度の実施) ○看護学科において、「卒業時の学生像」についての具体的検討が22年度にずれ込んだ。遅れた理由を明らかにするとともに中期計画の達成に向けて早急に検討を進められたい。
		B	○医学科定員増に対する対応を、今後お考えいただきたい。
		B	○アドミッション委員会を設置し、アドミッションポリシーを策定するなど、入試に関する体制が、一段と整備したことを評価したい。又 改善改革報告書の課題についても着実に対応を進めており、一定の成果を上げている。一方学部のコース再編議論と合せ課題となっているディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの策定が急がれるところである。
2 大学院教育の内容等に関する目標 (2) を達成するための具体的方策	B	B	○新研究科のアドミッションポリシーが明確化されていないことは大変残念である。研究科再編のイメージを社会的に明確に打ち出すためにもカリキュラム・ディプロマポリシーの確立とあわせ早急に策定されたい。
		B	○在学生数が充分とは言えない。特に博士後期課程の学生を増やさないとな研究が活性化しないのではないか。
		B	○都市社会文化研究科、生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科においてアドミッションポリシーについて、21年度中の策定に至らなかったのは遺憾である。(前年度の指摘事項であるが、カリキュラム・ディプロマポリシーの策定を受けての進行を予定していたが、全て出揃っていない状況もあり、21年度中の策定に至らなかったことは遺憾である。)
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 教育の実施体制等に関する目標を (3) 達成するための具体的方策	B	C	○全学的な教育実施体制の充実等を目指して構想されていた研究院がその主たる目的であるべき教育面で当初計画の機能を十分に発揮しえていないことは残念である。認証評価の基準3で指摘されていることも踏まえ、教育内容に応じ必要とする教員を全学的に確保する全学出動体制の構築を含め、大学運営における位置づけ、機能、役割分担など研究院構想の全体像の明確化とその具体化への着実な取り組みを求めたい。
		B	
		B	○「研究院」については、21年度計画が実行されず、具体的には22年4月に「学術企画課」として集約されたにとどまっているのは遺憾である。
		B	
		B	○教員の柔軟な活用や領域横断的な研究を推進する上で研究院のあり方は極めて重要な課題であり、その方向性が徐々に明確になりつつあるが、平成22年4月に学長のもと「学術企画課」として組織体制も整備され、今後はその成果を期待したい。
3 学生の支援に関する目標を達成するための取組	B	B	○大学院特待生制度の導入にさまざまな課題があることは理解できるが、これに代わる優秀な学生確保の方策についてなお十分な検討を期待したい。 ○キャンパスアメニティ向上のための施設整備に積極的に取り組んでいることを評価したい。なお施設設備の整備にあたっての法人と設立団体の役割分担を明確にしたうえでさらなる取り組みの推進を期待したい。 ○キャリア支援へのさまざまな取り組みを評価するが、最近の社会情勢も踏まえキャリア教育充実のための全学的な取り組みの強化を期待したい。
		B	○学生支援は概ね計画通りに行われていると思われる。日本学生支援機構の奨学金の返還義務に関するガイダンスが徹底的に行われている。
		A	○「学習環境の充実等」「学生生活空間の拡充」「学生の声を聴取」「キャリア支援及び学生生活の充実」「学生の相談窓口体制」「学生生活の支援」「経済的支援」の各項目について、学生の声を反映した取組を実施したことは評価できる。(引き続き、一層積極的に取り組まれたい。)
		A	○医学科女子学生増(多分1学年当10-15名ほど増え1学年全体で30-40名となり、6学年で200名位)による、施設の改修の必要性を検討する必要あり(トイレ、更衣室、当直室、etc)。
		A	○学生の支援に関する取組は、就職支援のほか学生アンケート等の要望を踏まえた学生交流ラウンジの整備やトイレ改修など積極的に進められた。又 IT環境の整備も大幅に改善され、かなりの成果が認められた。さらに懸案の八景キャンパス耐震補強も方向性が固まり、実現に向け大きく前進したことも評価したい。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
4 研究に関する目標を達成するための取組	B	A	<p>○科学研究費補助金をはじめ国等の大型研究費・教育プログラムの獲得総額及び採択件数が着実に増加していることを高く評価したい。</p> <p>○木原生物学研究所の木原展示室の整備などの個別の取り組みは評価できるが、中期計画に示されている生命科学分野の再編の推進についてはなお検討中とされている課題が多く、第1期中期計画中の達成は困難と思われる。第2期期間も踏まえよりスピード感のもとに具体的な再編の推進に努められたい。</p> <p>○大学にふさわしい高度の研究水準を維持しさらにつねにその向上を目指すことは当然の課題であり、とくに臨床系医学において、医学部入学定員の増加、附属病院の診療充実や医業収益確保等の社会的要請への対応にあたって、こうした大学本来の使命達成に十分留意されたい。</p>
		A	<p>○大型プロジェクトの採択、科研費の採択件数の上昇、共同研究・受託研究の増加、産学連携の取り組み等、外部資金獲得への努力が見受けられる。</p>
		B	<p>○「共同研究」「受託研究」の件数及び金額「科研費」採択件数「奨学寄附金」収入のそれぞれについて、いずれも前年を上回っており、21年度の外部研究費獲得総額は、初めて30億円超となるなど、着実な成果は評価できる。</p> <p>○「研究費不正防止計画」については、今後も慎重に、かつ、確実に継続して実行することが重要である。(「医局」関連は、コンプライアンス問題のみでなく、公立大学法人、横浜市立大学のガバナンスの問題としてとらえるべきと考える。)</p>
		B	<p>○外部資金の受入れが順調である。</p>
		B	<p>○科学研究費補助金の採択件数、採択率が昨年度を大きく上回ったことは、申請書の完成度、若手研究者の意識の高まりによるものと思われ、その結果外部研究費獲得総額が初めて30億円と過去最高を記録したことは高く評価できる。</p>
II 地域貢献に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○地域貢献センターに都市政策部門を設置し、学内外の知識の融合による横断的な研究プロジェクトを展開するとされていることの進捗状況が明確になっていない。横浜市の政策と関連する実践的課題への取組みなどより具体的な推進を期待したい。</p> <p>○エクステンション講座について、昨年度の指摘を踏まえ、経費の削減にも努めつつ、市大講師による講座数の大幅増などその充実に努めていることを評価したい。</p>
		B	<p>○地域貢献度ランキングの著しい上昇は、それなりの成果を修めた結果と見なされるが、引き続きこの結果を維持できるよう努めていただきたい。</p>
		B	<p>○日経グローバルによる大学の地域貢献度ランキングの大幅な上昇は評価できる。</p> <p>○地域貢献センター都市政策部門について、より具体的な取組内容を明確にする必要がある。</p>
		B	
		B	<p>○地域貢献センターが具体的に機能し、徐々に成果にあらわれている。エクステンションセンターの八景キャンパスへの移転に伴う参加者数への影響も様々な工夫により最小限にとどめ、運営の効率は一段と改善し評価したい。地域医療の関連では人材の育成、地域のネットワーク作りなど幅広い分野で地域貢献活動を展開し、地域医療の中核として存在感が高まっており、高い評価ができる。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
Ⅲ 国際化に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○法人全体の国際化戦略であるミッションステートメントを策定するとともに、これに基づきアカデミックコンソーシアムの立ち上げを進めるなど、明確な方向性のもとに具体化を進めていることを高く評価したい。</p> <p>なお同ロードマップに掲げられている課題は極めて多岐にわたっており、具体的な取り組みに当たってのさらなる重点化ないし精選についても今後の検討を期待したい。</p> <p>また英語による授業科目数、外国人教員ないし研究者数、留学生数、海外派遣学生数(ないしその比率)といった基礎的な条件整備についてのなんらかの数値的目標を掲げることの可能性について検討されたい。</p> <p>○アメリカへのセメスター留学に関しJSAFと連携協定を締結したことは、海外留学促進の有力な条件整備のひとつとして評価したい。</p> <p>○留学生数がなお低迷していること、中国・韓国以外のアジア諸国からの留学生数および本学からの派遣学生数がきわめて少数にとどまっていることは残念であり、その増加への積極的取り組みを期待したい。</p> <p>○留学生宿舎の建設は行わず民間からの借り上げによる宿舎確保を進めるとすることはやむをえないが、特に留学生の来日初期の適切な宿舎の確保に十分配慮されたい。</p>
		B	○国際化への種々の取り組みが、スタートした段階と見受けられる。学生の海外への送り出しに奨学制度を設ける等、支援を考えたらどうか。
		B	○ミッション、ステートメントの作成とその周知及び具体的取組は評価できる。 ○中期計画にある「国際交流センターを設置し、」についての、その後の具体的実行、現状をもっと明らかにする必要がある。
		B	○留学生の数の確保をお願いしたい。
		B	○国際化に関するミッションステートメントが策定され、ビジョンと4つの戦略課題が明示されたことは評価したい。横浜市立大学らしい特色も見られるが、やや広範な内容となっており、戦略課題の絞り込みや推進体制について更なる工夫が必要と考える。
Ⅳ 附属病院に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○安全な医療の提供をはじめ年度計画が概ね順調に実施されている。</p> <p>○特に健全な病院経営の確立に向け医業収益の大幅な増収が確保されたことは高く評価したい。同時に地域の中核となる大学病院にふさわしい安全で質の高い医療が今後とも確実に提供されることを期待したい。</p>
		B	○概ね順調に運営されている。
		B	○下記1～5までの取組について、一部改善を要するもの等はあるが、そのかなりの部分が実行されており、全体的に評価できる。
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 安全な医療の提供のための取組	B	B	<p>○一括公表の対象となる医療事故が過去5年間で最多の7件となり、またインシデント報告件数が逐年増加しつつあることは残念であり、より安全、安心な医療の実現に更なる努力を期待したい。</p> <p>○附属病院の臨床検査部門においてISO15189の認証を取得したことを評価したい。</p>
		B	<p>○患者にとっては、病院に求める最大の取り組みであることを認識して一層の改善に努めてほしい。</p>
		B	<p>○一括公表する医療事故が過去5年間で最多の7件となったことは遺憾である。事例を良く分析し、再発のないよう医療安全の確保に向けて最大限の努力をして頂きたい。</p> <p>○インシデント報告数が附属・センター両病院共に毎年かなり増加しているが、医療安全の確保のために、この原因を分析、解明する必要がある。</p>
		B	
		B	<p>○安全な医療は病院運営にとって生命線であり、附属2病院とも医療安全管理の徹底に様々努力されていることはうかがえるが、このほど公表された医療事故の内容によると、一括公表の医療事故が過去5年間で最多の7件と急増しており、又インシデント報告も増加し、懸念される状況である。医療安全に向けた一段の努力を期待したい。</p>
2 健全な病院経営の確立のための取組	B	A	<p>○入院・外来単価の伸び等による医業収益の大幅増収及び人件費比率の適正化などにより経営改善への努力が積極的に進められていることを高く評価したい。また一般競争入札の導入等市の包括外部監査における指摘事項にも適切に対処していることは評価できる。</p> <p>○附属病院において十分な体制を確保するための必要看護師を確保できなかったことは遺憾である。看護学科卒業生の両病院への就職率の向上を図ることを含め、引き続きの努力を期待したい。</p> <p>○センター病院における他病院との共同購入組織(GPO)への参加による医薬材料費価格削減への取り組みを早急に進められたい。</p>
		B	<p>○大幅な増収の下で、無理な人件費削減により安全な医療、患者へのサービスを損なわないよう充分な配慮をお願いしたい。</p>
		B	<p>○附属及びセンターの2病院とも、医療収益の増収や人件費比率の減少が進んでおり、経営改善の努力は評価できる。</p> <p>○一般競争入札導入も、包括外部監査の指摘事項に適切に対応している。</p> <p>○医薬材料費率の適正化が画られないことは遺憾である。引き続き努力されたい。</p> <p>○看護師確保については、引き続き努力されたい。</p>
		B	<p>○看護師の確保にもっと力を入れていただきたい。</p>
		B	<p>○附属2病院とも入院単価、外来単価が伸び、診療収入が増収となり、医療収益は大幅に増加し、又人件費比率の適正化も進み、その努力を多としたい。入札制度の改革、経費の削減にも取り組み一定の成果を上げているが、医療材料費率の適正化は目標値と乖離しており、一層の工夫努力が望まれる。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
3 患者本位の医療サービスの向上と地域医療への貢献のための取組	B	B	<p>○1両病院において、地域における医療従事者への研修機会の充実のため、医師をはじめ看護師、薬剤師等にはばひろく各種の研修会や講座等を開催していることは評価できる。</p> <p>○患者が安心して、心地よく診療が受けられるよう一層の努力をして欲しい。</p> <p>○地域医療従事者への研修機会の提供については、当初予定していた医師のみならず、看護師や薬剤師なども対象に各種講座や研修会を実施したことは評価できる。</p> <p>○診療待ち時間については、中期計画の30分以内は両病院とも達成しており評価できるが、患者本位のサービスからは一層の短縮に努力されたい。</p> <p>○センター病院では地域医療の連携について、約1500か所の診療所にアンケート調査を行ない、診療所検索システムを開発し各外来診療科などで逆紹介の推進体制の強化が図られ成果につながっており、評価したい。</p>
4 高度・先進医療の推進に関する目標を実現するための取組	B	B	<p>○高度先進医療の推進のため年度中に新たに9件の申請を行いうち7件が承認されるなど着実に先進医療の推進に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>○「高度先進医療の推進」について9件申請し、7件が承認されたことは評価できる。</p> <p>○「専門外来の充実」について、禁煙外来・新型インフルエンザ予防接種外来・子宮頸がん予防外来の開設は評価できる。</p> <p>○「がん治療の充実・促進」について、がん診療連携拠点病院の指定更新に向けて「緩和医療部」及び「放射線部・治療担当」を設置し、承認されたことは評価できる。</p> <p>○「先端医科学研究やトランスレーショナルリサーチへの取組」について、先端医科学研究センターで、研究開発プロジェクト(第Ⅱ期)に臨床現場として大きく貢献したことは評価できる。</p>
5 良質な医療人の育成に関する目標を実現するための取組	B	B	<p>○両病院において「市大病院学会」と位置付ける各種の研修会等の開催や関連情報の提供等を積極的に行い、幅広い地域の医療従事者の研修や地域医療機関との連携を着実に進めていることを評価する。</p> <p>○シニアレジデントの育成強化、研修医の研修体制の充実、病院実習の受け入れ体制の強化などの取り組みを評価したい。</p> <p>○女性医師や女性看護師の職場復帰は人材不足の折、支援を強化する必要がある。</p> <p>○「職員の声を吸い上げるシステムの構築」について、中期計画にある、「職員が病院長にダイレクトに意見提案できるオフサイトミーティングの実施など職員提案システムを充実する」は、実施状況とその成果が実績報告書に表われていない。</p> <p>○医師の教育にe-learningを用いているのは興味深い。その効果について調べていただきたい。</p> <p>○市大病院学会を創設し、地域医療連携研修会の実施やオープンカンファレンス情報の提供など地域連携の強化につながる施策を展開したことは評価できる。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○理事長・学長のリーダーシップのもとに年度計画が概ね順調に実施され、外部資金の積極的獲得や経費抑制等法人経営改善に向けて意欲的取組みが進められている。</p> <p>また、懸案の八景キャンパス再整備構想の策定に積極的に取組み、その策定が完了させたことを評価したい。</p> <p>○第1期中期計画期間の課題の整理を踏まえつつ第2期期間の計画の策定への取組みが順調に進められていることを評価したい。</p>
1 経営内容の改善に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○「業務収益」の学生納付金収益、附属病院収益、外部資金の合計が前年より 2,037百万円増加し、「業務費用」の業務費、一般管理費の合計が前年より 1,150百万円増加しており、差引 887百万円の増加は、自己収入の増加や経費の抑制を推進した結果と考えられ、評価できる。</p> <p>○法人全体の「ガバナンス」の構築が必要。(不祥事の再発防止と大学及び2病院の全体をまとめて統制する必要性)</p>
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○寄付金受入れの増加に努めこれをスタートアップ奨学金の原資とするなど学生支援に活用していることは評価できるが、受入額のさらなる増額に向けて組織的な取り組みを期待したい。</p> <p>○経費の抑制に努めた。寄附金は前年度を上回ったが、一般的には少ないので、更なる努力が必要。しかしスタートアップ奨学金が創設されたので、更に充実することを期待する。</p> <p>○運営交付金は前年より 493百万円減の 10,667百万円であった。(尚、「運営交付金」は法人化した平成17年度より21年度までの5年間合計で 2,363百万円減少している。)</p> <p>○業務収益の外部資金は前年より 203百万円減少の 1,268百万円であった。</p> <p>○人件費については、「大学」部門が経常費用の55%超となっており、今後とも改善すべきと考える。</p> <p>○医療収益の増収、増益に加え、人件費等の経費削減努力により、当期純利益は前年比11億円増と大幅増益となり、その成果は率直に評価できる。又、外部研究資金等、国等の補助金が大幅に増加したことも良とするが、寄付金の推進については増加したとは言え極めて少ない水準であり、大学OBなどへ一段の組織的な推進体制を期待したい。</p> <p>○テニユア制度について教員の任期制とマッチした制度構築が進まず、かつ、国際総合学部における専任教員等の採用に関する基本的方針の整理が進んでいないことは遺憾である。これらの課題への積極的取組みを期待したい。</p> <p>○本年度から教員評価結果の処遇への活用制度を実施したことは評価できるが、これに伴う諸課題の検討やサバティカル制度のような教員のモチベーションのいっそうの向上のための制度の具体化が進んでいないことは残念である。上記1を含め総合的な教員処遇策の確立への積極的な取組みを期待したい。</p> <p>○全学的な経営戦略の確立及びコンプライアンス推進体制充実に向けた努力。経費が抑制されたことに伴う教育・学生支援への有効な投資を期待する。テニユア制度については、他大学との調和を考える必要がある。</p> <p>○人件費比率の低下に向けて一層の努力が必要。特に「職員給与制度の見直し及び人事考課制度の構築」「教員のテニユア制度やサバティカル制度の前進」「法人固有職員への切り替え等」について検討し、法人としての適正人員、適正給与制度を確立することが望まれる。</p> <p>○様々な改革が中途半端になっている。テニユア制度も、本当にやるのであれば実施すべき。</p> <p>○理事長を中心としたトップマネジメント、ガバナンス体制が計画期間の経過とともに徐々に機能し、様々な戦略課題に積極的に取り組む姿勢がうかがわれ評価したい。ただ、コンプライアンスの問題については、研修や意識の徹底も重要だが、これまでの不祥事故の反省に立っともう一歩踏み込んだ組織的な仕組み作り、システムの対応が必要である。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
3 広報の充実に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。
		B	○大学広報に学生の視点を活かした取り組みを実施したことは大切なことであり、今後更に拡張して欲しい。
		B	○現在の広報活動について、①学生の入学志願者数 ②2病院の患者数 ③寄附金の増加 ④グッズ販売の増加等について分析し、よりよい広報活動の推進に向けて活動が必要。 ○医療事故も含めて、プレスへの情報発信が適時、適切かの検討が必要。
		B	
		B	○広報活動については実態調査分析の結果を踏まえ「PRツールの強化」に取り込んでおり、Webサイト、YCUネット、あるいは広報 DVD の作成と諸施策を展開し、成果ありと評価したい。
VI 自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	B	B	○認証評価を受審し「評価基準を満たしている」との評価を得たことを評価したい。またその準備過程で改善を要する点やその要因分析を積極的に行い、いくつかの重要な課題について全学的に問題意識を共有するにいたったことを評価したい。これらのプロセスで明確になった問題点を真摯に受け止め、今後の改善への積極的な取り組みを期待したい。
		B	
		B	○大学機関別認証評価については、「大学評価基準を満たしている」という評価結果を得たことは、評価できる。 ○しかしながら、「結果」とは別に指摘事項もあり、これについては早急に改善を要する。
		B	○大学機関別認証評価について「大学評価基準を満たしている」という評価結果を得たことは良とするが、学位の質の向上や大学運営に係る情報の共有化など改善すべき課題も指摘されており、この結果を真摯に受けとめ早急に全校あげて取り組んでほしい。
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	B	B	○全体的には年度計画が概ね順調に実施されているものの、個人情報管理に関し重大な事故が発生したことは遺憾である。
		B	
		C	○危機管理規定の制定や防災マニュアルの作成着手、個人情報保護に関する研修や自主点検を実施するなど、制度や形式は満たしていても、それが、その通り実行、実施されるかが重要であり、当年度は実施が不十分であった。
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 安全管理に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。
		B	○各施設の安全管理の指導と強化に一層努めて欲しい。
		B	○危機管理規定の制定や防災マニュアルの作成着手は評価できる。しかし、それが実行、実施されているのかのチェックが重要。(現に昨年度は3件の小火が発生している)
		B	
		B	○懸案の八景キャンパス耐震補強について漸く基本的方向性が固まったが、早期実現に向け一段の努力を期待したい。また危機管理規程を制定し、各種危機の未然防止に一定の努力をされていることは認められるが、その精神が必ずしも組織の中で共有されていないのではないか結果として3件の小火が発生したことは遺憾であった。
2 情報公開の推進に関する目標を達成するための取組	C	C	○本年度にUSBメモリーの盗難事故が発生したことは、個人情報管理上極めて遺憾なことである。教職員のさらなる意識向上はもとより勤務環境の整備等を含め法人として総合的な個人情報管理体制徹底への積極的取組みを期待したい。
		C	個人情報保護の徹底指導、保護体制の見直しを行うべきである。
		C	○職員の持ち出しによる、USBメモリーの盗難という事故の発生は誠に遺憾である。(原因の究明と本人、責任者等の反省、法人としての再発防止策の徹底が必要)
		C	
		C	○個人情報の管理については、その重要性を従来から指摘してきたところであるが、USBメモリーの盗難という事故が発生し、大学の信用を損なう結果となったことは遺憾であった。再発防止に万全を期すよう情報管理の徹底を期待する。
VIII 予算、収支計画及び資金計画			<p>○利益処分額については、全額目的積立金とすべき理由(全て法人の経営努力であると認められるに足りうる根拠)を確認したい。</p> <p>○昨年度の利益処分に関する本委員会の意見として、以下の意見を述べたが、その検討状況を明らかにされたい。 【意見】「設立団体との共通理解のもと、次期中期目標・計画を見据え、目的積立金の活用も含め、法人全体の財務基盤の強化及び予算統制(収支計画、資金計画、さらには人員配置計画や設備投資計画など)がさらに実質的に機能するための取組を進めること。」</p> <p>○ガバナンス、トップマネジメント体制が徐々に整備され、経営の一体感が醸成されつつあるが、予算、収支計画及び資金計画がP-D-C-Aのサイクルで有効かつ機能的に運営されるよう一段の努力を期待したい。</p>

年度計画(項目)	自己 評価	委員 評価	コメント
----------	----------	----------	------

■備考(総合的な評価コメント等はこちらにご記入ください。)

			<p>○第1期計画期間も1年を残すのみとなり、いくつか計画と現実との間の齟齬、あるいは当委員会の過年度の指摘に対しなお取組みが不十分な部分も散見されるものの、全体的には理事長・学長の適切なリーダーシップのもと、年度計画に従い着実な法人運営が進められていると認められる。</p> <p>○特に大学院研究科の再編、医学部の入学定員増、大型の外部研究資金の獲得、大学全体の国際化戦略の策定、地域貢献センターの活動強化など特色ある大学づくりを目指す取組みが積極的に進められていることを評価したい。</p> <p>○法人としては第1期期間の残された課題、計画期間中に新たに明確になった課題、さらに社会情勢の変化等に伴い今後新たに取組むべき課題等を的確に整理し、第1期計画期間の円滑な完了と次期計画の策定及びそれへの積極的な取組みの準備が進められることを期待したい。</p> <p>○今年度は大幅な病院収益の改善が図られ、また経費の節減、外部資金の獲得など法人経営の改善に向けて着実な取組みが進められたことは評価したい。</p> <p>一方で法人としての経営の基本目標は、そうした努力の積み重ねを踏まえつつ大学における教育研究活動をさらに充実させ、安心・安全でより高度で充実した医療を提供することをつうじて真に市民に貢献しうる大学運営を実現することにあることは言うまでもない。</p> <p>公立大学法人における「健全な経営」の意味するところについて、全学構成員はもとより設立団体との十分な意思疎通に基づく共通理解をさらに深めるとともに、このことについてより多くの市民の共感と支援が得られるよう引き続き努力を重ねられることを期待したい。</p>
			<p>○全ての項目について、真摯に取り組んでいる様子が窺われる。今後更に結果が出てくることを期待する。</p>
			<p>○運営交付金収益と長期借入金について(平成17年度より平成21年度の5年間)</p> <p>運営交付金収益は 2,363百万円の減少、長期借入金は 1,914百万円の増加、差引 449百万円が実質的減と考えられる。(年間平均 約9千万円)</p> <p>長期借入金は、償還にあたっては、元金の全額補助を受けるものであり、実質的には、運営交付金はあまり減少していない。</p> <p>剰余金の利益処分との関係を考慮する必要はないか。</p>
			<p>○法人化の当初にあった診療科の再編などの議論が見られないが、すでに完成して安定した状態になっているとは考えにくい。今のまま当面動かさないのであれば、そのように記載していただきたい。</p> <p>○看護師の確保は非常に重要なので、方策を考えていただきたい。</p> <p>○任期制とテニュア制は重要であり、全員が任期になった場合、慢然と任期の延長を行なうのではなく、テニュア制の活用を考えるべき。</p> <p>○研究費の獲得状況は、向上していて頼もしい。</p> <p>○財務諸表の剰余金の状況については、今後同様の剰余金を出す努力を続けるのか考える必要がある。</p>